

**平成30年度岡山市市民協働推進モデル事業
最終評価表**

実施団体	くらしのたね		
協働部署	庭園都市推進課		
記入日	2019年3月26日		

1. 事業の目標と結果

事業の目標	目標に対する結果	結果の自己分析
パークマネジメントの理解が進み、パークマネジメント準備会ができている	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の会のメンバー内ではパークマネジメントへの理解が着実に進んでいる。(市民の会の会員は53人に増えた) ・パークマネジメント準備会を設立し、3月22日に第一回会議が開催された。 	<p>工夫したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世話人会議の度にパークマネジメントについて改めて周知した。 ・パークマネジメントを分かりやすく伝えるためのパネル作成などを通して、メンバー内の理解がさらに進んだ。
市民の会の活動が認知され、市民から自主的な活動がなされ、それが発信されている	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の会の活動は認知されてきている。 ・年度当初には想定していなかった新しい活動が始まっている。 ・市民の会のFacebookやメンバー一人一人のFacebookなどで、市民の会の活動が随時発信されている。 	<p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の会のウェブサイトを作成したが、更新の頻度が低く十分な情報の発信につながっていない。今後は市民の会のメンバーで役割を分担しながら更新の頻度をあげていきたい。
モデルプロジェクトを通して新公園活用への課題や活用の際に必要なデータを収集している	<ul style="list-style-type: none"> ・新公園を活用していくための経験値が市民の会のメンバーに蓄積されてきている。 ・新規プロジェクトを始めるためのメンバー募集は想定より難しい。既存プロジェクトに参加する新メンバーは着実に増えている。 	<p>要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規のプロジェクトを立ち上げるには既存のプロジェクトを運営する以上に時間とエネルギーを必要とするので、新規プロジェクトの発起人と推進者の募集は難しい。 <p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規の事業を立ち上げやすいように、市民の会としてサポートする仕組みづくりを模索している。
その他	<p>北長瀬の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新公園は建設中なので、各種のステークホルダーと前向きな話し合いがしやすく、伸び伸びとプロジェクトを実施できる。 ・新公園は郊外に立地しているが、近隣の施設や住民へ配慮しながらプロジェクトを進めてきた。そのおかげで、今後周辺にできる住宅街や施設とは、良好な関係を築けるだけの経験と知見を積むことができた。 <p>市民の会の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度の市民協働推進ニーズ調査事業からのつながりや関係性が良い形で活きている。 ・市民の提案ではじまり、市民の主導で進む、民間主導のパークマネジメントとして素晴らしい成果をだしており、今後ますますの活躍が期待される。 	

2. 協働の基本原則に基づくチェックリスト

協働の原則	チェック(できたものに☑)	指標(※指標の番号が大きくなるほど協働が進んでいる状態を表します。)
相互理解の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署がそれぞれの役割を明文化した
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 実施団体と協働部署がそれぞれの役割を果たした
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 実施団体のミッションを理解していた(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 岡山市(協働部署)の方針や計画を理解していた(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 実施団体と協働部署のそれぞれの強みが発揮され、弱みが補われていた
目的共有の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署が事業のスケジュールを把握していた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 実施団体と協働部署の双方の合意によって事業目標が決定されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 実施団体と協働部署が事業の成果・課題を定期的に共有していた
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 実施団体と協働部署が理想とする社会状況を共有していた
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 実施団体と協働部署が理想とする社会状況と現状とのギャップを共有していた
対等の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 双方の合意によって役割分担が図られていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 実施団体の意思・意見が尊重されていた(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 協働部署の意思・意見が尊重されていた(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 実施団体のみに役割や責任が集中していなかった(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 協働部署のみに役割や責任が集中していなかった(協働部署が回答)
自主性及び自立性尊重の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署が積極的に意思表示をしていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 事業またはその他の意思決定において実施団体に不当に干渉されなかった(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 事業またはその他の意思決定において協働部署に不当に干渉されなかった(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 事業またはその他の意思決定において実施団体に依存されなかった(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 事業またはその他の意思決定において協働部署に依存されなかった(実施団体が回答)
公開の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署間で事業の進捗状況や予算の執行状況が随時共有されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 議事録やイベントごとの報告書が作成され、実施団体と協働部署で共有されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 必要に応じて実施団体と協働部署以外の第三者の助言を仰いでいた
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 事業の案内が実施団体のウェブサイト等で随時発信されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 事業の結果が実施団体のウェブサイト等で随時発信されていた